

正田洋一 政策レポート

後援会だより
リニューアル 第2号

正田洋一事務所
〒723-0062 三原市本町 1-7-32
TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp
HP www.shoda-yoichi.jp

私が最も大切にしているのは
『課題解決』と『説明責任』です

市民の目線で市役所の仕事をチェックして
地域の課題を解決に導き、未来に繋がる
政策を提示実践していきます。

未来の 扉を開く

ご挨拶

政策レポートの2号の発行にあたり、新しい試みをしたいと思います。選挙前に私なりに「三原の論点」というタイトルで、今の課題とその解決方法について提示しようと思います。テーマは5つ+1つ。最後の1つは議会改革です。ぜひお読みいただければ幸いです。



三原の夏のはじまり半ドン夜市



美しい眺望の瀬戸内海



三原駅を望む春景色

この三原の未来に希望が持てる政治を

三原の論点

本郷南方産廃処分場問題

最初は、本郷南方産廃処分場問題です。

私なりに深くこの問題にアプローチしています。議会での質問は3期目では16回中15回この問題について行いました。この施設は民間が設置したのですが、建設段階から数々の法令違反があり、建設された後は、基準を超える数値の汚染された排水が流れ出す実害が出ています。それにより、農業の担い手が農業をやめてしまう事態に追い込まれています。私が提案してきたことは、設置許可権限者の広島県に対して業者への厳しい監視の実行です。

三原市に対しは、処分場外に排出される排水に対する水質検査の強化と水源保全条例の制定です。三原市が独自の水質検査を行うと回答したのは、私の議会質問の答弁に答えたものです。三原市から広島県への申し入れは、度々行われたものの、県の対応は積極的ではありませんでした。三原市は、もう少し方法を変えて強く申し入れるべきです。こういうことにトップセールスを使うべきだと思います。

また、法の専門家と徹底的に対策を相談し、できる法的手段を提示し、広島県を動かざるおえないようにすることです。マスコミも

大きく取り上げており、関心の高いテーマであったわけですから、記者会見等を頻繁に行い、この問題を広く市民に周知し、三原市が先頭に立ち課題解決に導くべきです。



三原市としてできる重要な役割を私なりに提示します

- ①水源保全条例の強化、罰則規定をつくる▶ 三原市の検査結果により違反があれば起訴も可能
- ②水質検査の強化▶ 検査の時間を不規則にすることで汚染実態を確実につかむ
- ③国に対する要望の強化▶ 安定型産業廃棄物処分場の法律の不備を改正していく

人口問題をどうとらえるか？

三原の論点第2弾は、人口問題とどう捉えるかについて、人口減少は避けてはとおれないものになりました。高齢化や少子化により大きな減少段階に入っています。三原市は何を取り組むべきか対策別に書きます。

1. 獲得(GET)・・・三原に来てもらう
2. 流出阻止(KEEP)・・・流出を防ぐ
3. 自然減・・・ある程度受け入れるしかない

三原市は1の獲得政策（GET）に力を注ぐべきだと思います、今三原市が進めている企業誘致と次の企業誘致の場所探しの政策は支持できます。今行われている起業人の誘致と育成政策も支持できます。具体的には、規模は限定的ですが、リモートワークもしくはノマドワーカーと呼ばれる人たちの受け入れなどの取り組みをしてみませんか？と提案していきます。次に2の流出阻止政策（KEEP）は、住みよさの追究をすることだと考えています。三原市は子育て支援政策に力を入れており、これはマスト（やらなくてはならない）政策で、私が定義する住みよい環境とは、ライフスタイルが選べること、全ての世代が住みよい環境を追究することです。

できることを積み重ねることが大事です。また、三原に移住したい人たちの受け皿、移住サポートの更なる充実も求めていきたいと思えます。なお、現在でも移住に対するサポートは、専用ポータルがあるなど、かなり充実しておりますが、本町地区で空家相談などの実践を地域のとしても取り組んでおり、私も地域住民の担い手の一人として取組に参加しています。このような実践を横展開し、移住政策に積極的に取り組む人材をつくります。



三原の論点

離島佐木島の課題にどう取り組むか？

佐木島の課題をどのようにするのか?について。

まず、佐木島の課題を考えると、三原市の取り組みを2つの視点で見なくてはならないと思います。

1. 生活する場としての佐木島(生活起点の場づくり)

2. 観光・交流地域としての佐木島(観光・交流地域としての場づくり)

活性化が話題になったとき、この2つがごちゃごちゃになっている気がします。勿論、1も2も両方大事ですが、優先すべきは1だと思います。生活起点の場づくりに力点を置いた場合、今、ネックになっているのは船の乗船賃の問題です。ただ、三原市も燃料代の高騰の折、支援を出し続けているのはあまり認識されていません。しかし、島民の負担の側面で見ると、年々負担金額が増えているのも現実です。実際の提案としては、片道500円程度にしてほしいとのことで、私はその水準までは、三原市が支援してもよいと考えています。その根拠は周辺離島の運賃です。車の乗り合いなど、他の代替手段のない島という特殊事情も考慮し、三原市には再検討を促していきたいと考えています。また、議会の委員会等で調査研究し、課題としてとりあげ議論できるように提案したいと思います。

次に、また幼稚園、保育園の復活が要望として上がっていることについて、簡単にいかないという三原市の主張もわかります。私が議会で指摘をしたのは、結論は一つでなく、そもそもの課題に立ち返り、子どもを育てる夫婦が、子どもを預けて働きにいけないという視点で、課題解決できるものであれば、方法は他にもあるのではと提起しています。地域の要望に100%答えられないものであっても、課題に50%でも60%でも解決できないか提案していきたいと思います。**0か100ではないと言いたいのです。**



三原のまちのにぎわいについて考える

にぎわいという言葉ですが、三原に来る人、祭り・観光等の経済効果について書きます。三原は観光都市ではありませんが、私が議員活動をする中で高い位置で市民の皆様が興味を持っている話題です。観光にどうして取り組むのでしょうか?この問いから考えた場合、地域に経済効果を得るためだと思います。12年前に議員になった際に、観光政策を掲げた当時の市長(理事者)の考え方は、人の数だけでした。

私が示したのは **単価(使ってくれるお金)×人数(訪れてくれる人の数)の考え方**です。

また、**滞在時間が長くなればなるほど、お金を使う傾向にあり、「滞在時間(別名三原時間)」が経済効果に重要なキーワードになります。**具体的には**ビッグデータ**の分析を通して、どうすれば有効的に三原に人が滞在するコンテンツを活用することができるか、即ち、マーケティングの手法でにぎわいを科学する提案をしていこうと思います。既に、一般質問の場で、具体的な提案を何度か行っています。今後は、経済団体や観光団体、まちづくり団体への提案も、地域の担い手と自ら動くこともやっつけようと思います。PRで全て解決するという発想は、無駄なコストを生む原因になります。ターゲットを絞って経済効果を生むにぎわい政策をたてるべきです。そして、三原の祭りを磨き上げ、にぎわいの効果を出すことを提案していきます。地元の飲食店さんの売り上げが、祭りの日には通常の5倍の売り上げになるという**明確な効果目標**も設定した上での経済効果につながる政策を提案していきます。なお、ビッグデータの可能性については、モバイル空間統計という手段を使うと、過去の質問の場で申し上げております。



高齢化社会の交通手段の問題について

高齢者等の地域の移動手段について書きます。

大きな問題です。しかし、一方でこの問題は当事者になってみないとなかなか気づかないものです。私自身も問題として捉えていなかったことが反省点ですが、多くの市民の皆様の声聞く中で、重要性の高さに気がつきました。

この問題は、解決すべき事情が、地域によって違います。例えば、中山間地、郊外、中心市街地においては、いろいろな手段の組み合わせで問題を解決する必要があります。

例えば、三原市では、中山間地を中心にデマンド交通(タクシー等)での対応が行われています。また、路線バスの廃止に伴う対策も行われています。これらの対策は必要ですが、新たな手段を組み合わせ、利便性をある程度確保しつつ、地域の交通手段の維持に努めていかななくてはならないと感じています。また、比較的市の中心部から歩いて買い物や病院に行きにくい程度の距離の皆様には対策がありません。これらの状況の改善についても考えていきたいと思っています。具体的には、タクシー助成制度の創設を提案していきます。これは、中山間地、郊外、中心市街地とも100%問題を解決する手段にはなりませんが、課題解決の割合は上がると思います。様々なケースを想定し、できうる制度の研究をしたいと思っています。実は、議会では、この声は上がっています。しかし、現実的な提案がなされていない現状です。私は、全ての交通手段のミックスを含め、この問題に取り組んでいくことを約束します。

三原の論点 番外編 ～議会が変われば地域が変わる

これは自分の宣言として書きます。

議会人は何をやっているのかとよく聞かれます。また、投票率の低下をみてもわかるように議会は、年々市民からの期待値が下がっています。これは現職である私たちの責任です。

私は、議員の基本的仕事をいつも以下のように表記します。

市長(市役所)の仕事を市民の目線でチェックすること

地域の課題を解決に導くこと

政策提案を通じて未来につながる政策を提示すること

課題の見える化を促進するとともに、チーム議会としての有志、委員会の仲間と政策本位の議会に改革していきたいと考えています。また、石丸さんが言われていたエンタメ化、例えば、正田が質問に立ち、あいつは面白いから聞いてみようと思っただけ、わかりやすくユーモアがあって、みんなが納得できる質問や提案をする議員がいる。そう思っ興味をもってもらえる議会にしたい。正田に意見言えば、何でも解決に近づけてくれる。そう思われる仕事をしたいと思っています。市民の側の代表である議員の意識が変われば、飛躍的に街が変わる、この思いをもって議員をさせていただきたいと思っています。また、政策カフェ、課題解決カフェを開催し、市民の皆様の声聞く頻度をさらに上げて、アクティブに活動することをお約束します。

編集後記

今回の第2号の政策レポートは私にとって挑戦でした。論点は5つにとどまりません。まだまだ、沢山の問題提起をいただいています。私のミッションは、課題解決と説明責任です。政策本位の行動で三原の発展の一助になるべく、次の機会もチャンスいただきたい。今後ともご指導ご支援をよろしく願います。

そう願って今号をしめたいと思います。

みんなで三原の未来の扉を開こう！

